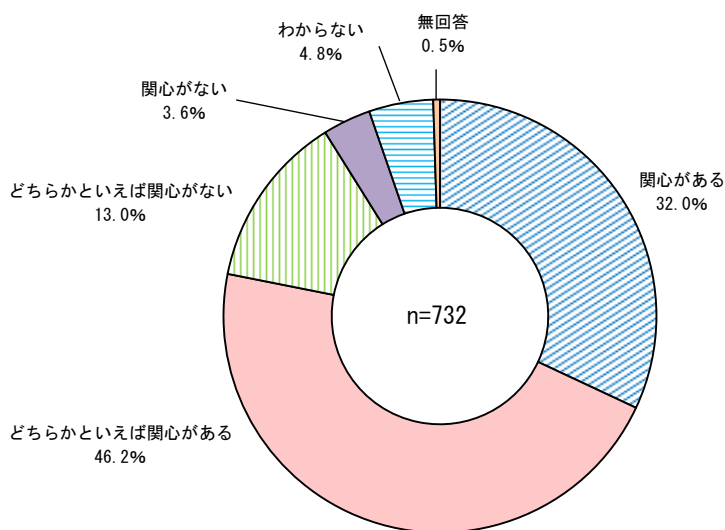


6 食の安全・安心について

問 32 あなたはこの「食育」に関心がありますか。次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「どちらかといえば関心がある」(46.2%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「興味がある」(32.0%)、「どちらかといえば関心がない」(13.0%)の順となっている。

【圏域別】

「どちらかといえば関心がある」については、道央広域連携地域(51.7%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(45.6%)となっている。「興味がある」については、道北連携地域(41.4%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(40.0%)となっている。

【人口規模別】

「どちらかといえば関心がある」については、札幌市と人口10万人未満の市(50.4%)が同率で最も割合が高く、次いで町村部(45.2%)となっている。「興味がある」については、人口10万人以上の市(39.8%)が最も割合が高く、次いで町村部(31.0%)となっている。

【性別】

「どちらかといえば関心がある」については、男性44.0%、女性48.7%となっており、「興味がある」については、男性28.6%、女性34.8%となっている。

【年代別】

「どちらかといえば関心がある」については、60~69歳(54.3%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(50.9%)となっている。「興味がある」については、18~29歳(39.7%)が最も割合が高く、次いで50~59歳(34.8%)となっている。

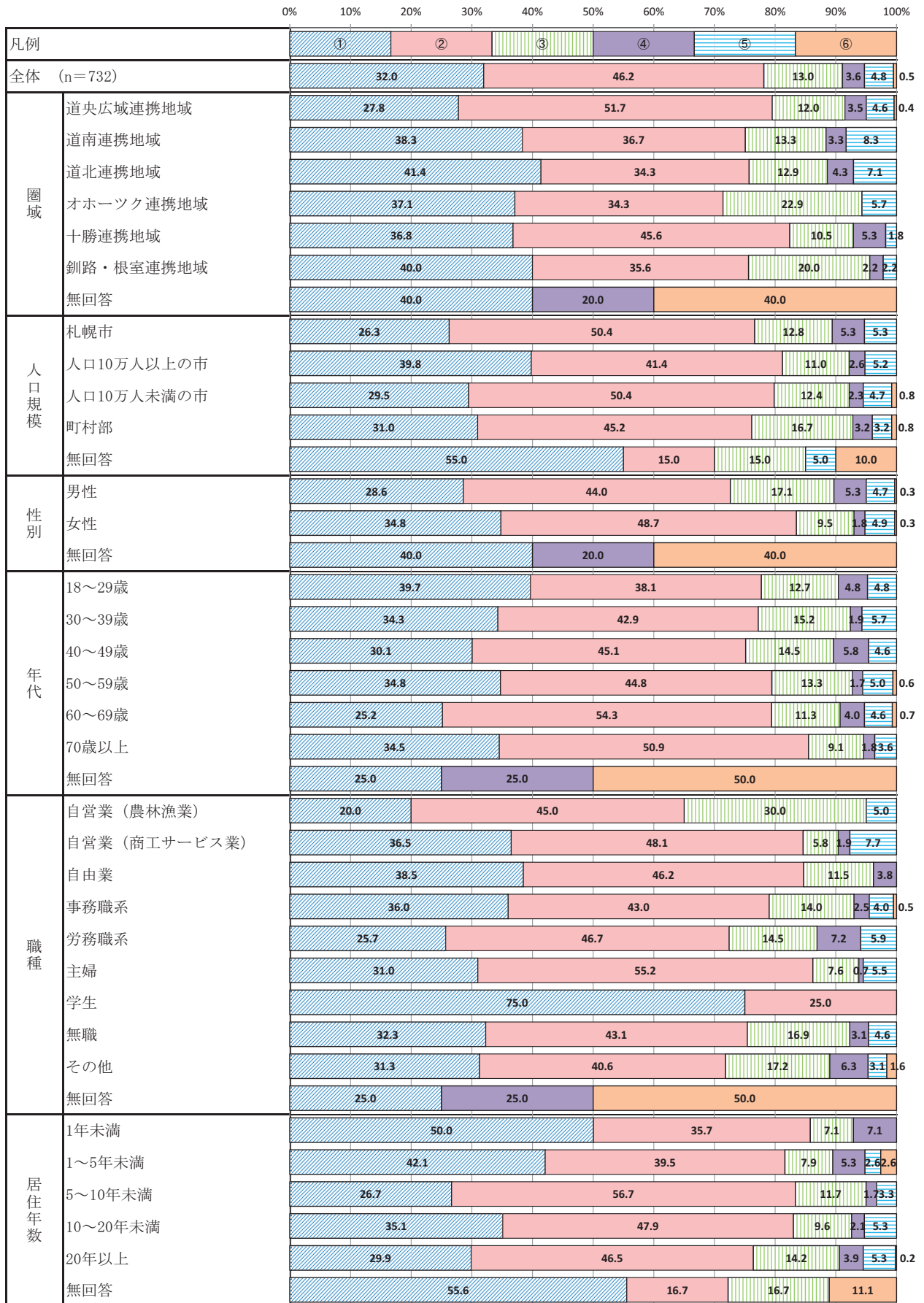
【職種別】

「どちらかといえば関心がある」については、主婦(55.2%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス)(48.1%)となっている。「興味がある」については、自由業(38.5%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス)(36.5%)となっている。

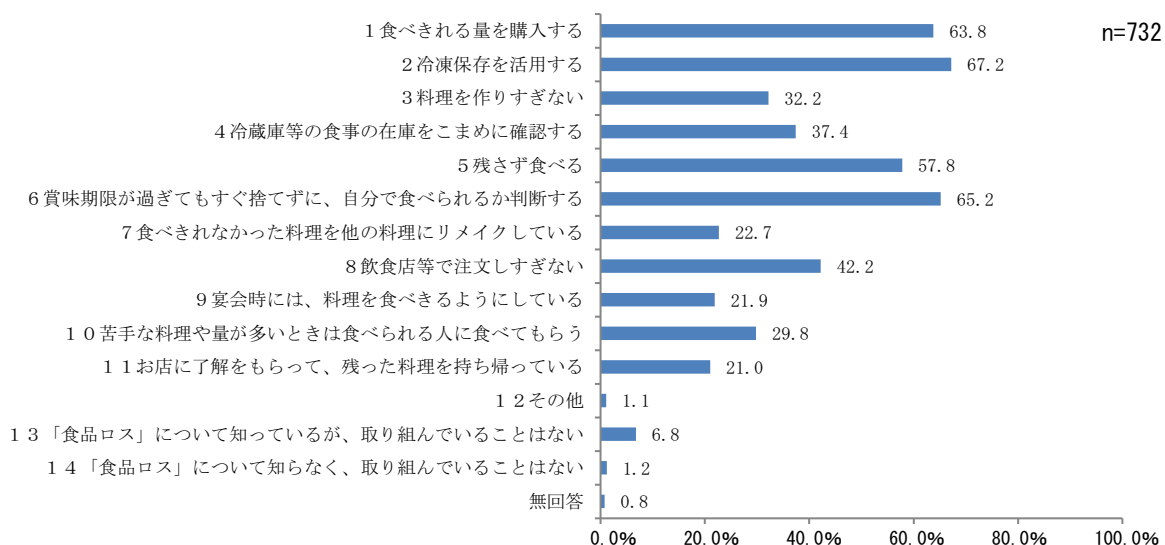
【居住年数別】

「どちらかといえば関心がある」については、5~10年未満(56.7%)が最も割合が高く、次いで10~20年未満(47.9%)となっている。「興味がある」については、1年未満(50.0%)が最も割合が高く、次いで1~5年未満(42.1%)となっている。

①関心がある ②どちらかといえば関心がある ③どちらかといえば関心がない
 ④関心がない ⑤わからない ⑥無回答



問 33 あなたは、「食品ロス」を減らすために、家庭や外食の場で普段から取り組んでいることはありますか。次の1から12の中から当てはまるものをいくつでもお選びください。
また、取り組んでいない場合は13または14から1つだけお選びください。



【全体】

「冷凍保存を活用する」(67.2%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「賞味期限が過ぎてもすぐ捨てずに、自分で食べられるか判断する」(65.2%)、「食べきれぬ量を購入する」(63.8%)の順となっている。

【圏域別】

「冷凍保存を活用する」については、道南連携地域(85.0%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(71.1%)となっている。「賞味期限が過ぎてもすぐ捨てずに、自分で食べられるか判断する」については、道央広域連携地域(67.0%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(66.7%)となっている。

【人口規模別】

「冷凍保存を活用する」については、人口10万人以上の市(74.3%)が最も割合が高く、次いで町村部(68.3%)となっている。「賞味期限が過ぎてもすぐ捨てずに、自分で食べられるか判断する」については、町村部(69.0%)が最も割合が高く、次いで札幌市(65.8%)となっている。

【性別】

「冷凍保存を活用する」については、男性59.9%、女性74.0%となっており、「賞味期限が過ぎてもすぐ捨てずに、自分で食べられるか判断する」については、男性60.8%、女性69.3%となっている。

【年代別】

「冷凍保存を活用する」については、70歳以上(78.2%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(72.4%)となっている。「賞味期限が過ぎてもすぐ捨てずに、自分で食べられるか判断する」については、30～39歳(73.3%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(71.5%)となっている。

【職種別】

「冷凍保存を活用する」については、主婦(78.6%)が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)(75.0%)となっている。「賞味期限が過ぎてもすぐ捨てずに、自分で食べられるか判断する」については、事務職系(69.0%)が最も割合が高く、次いで主婦(68.3%)となっている。

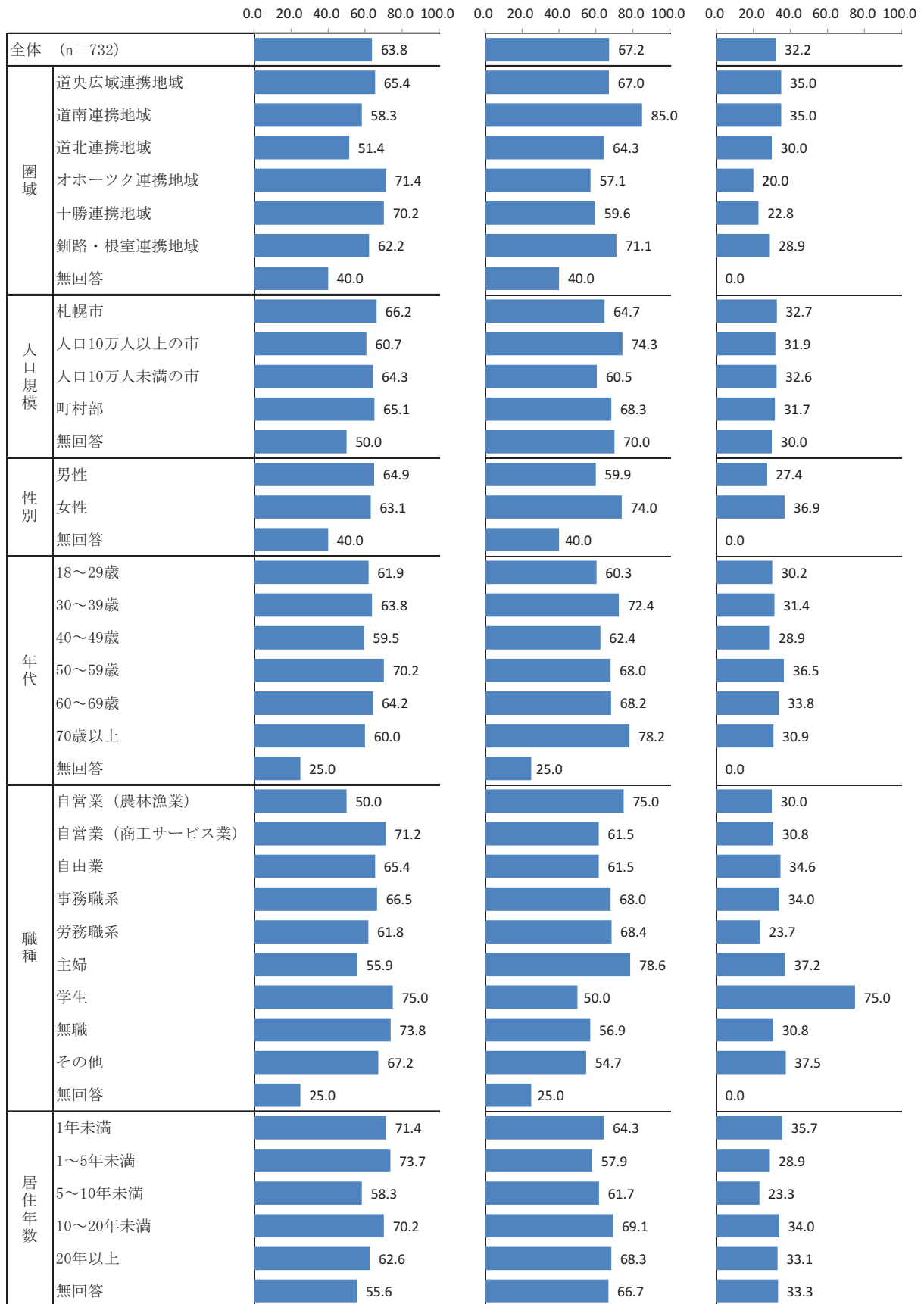
【居住年数別】

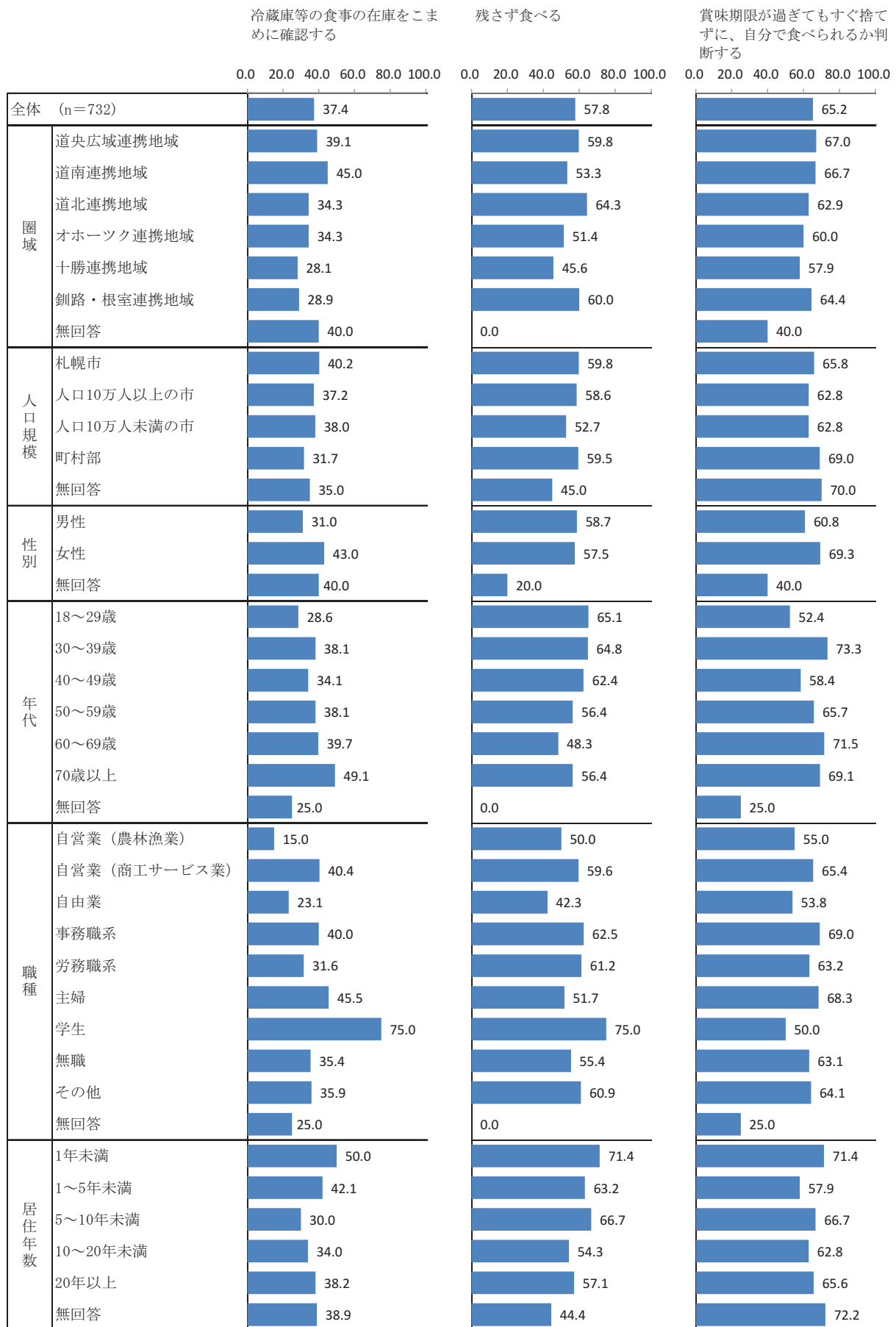
「冷凍保存を活用する」については、10～20年未満(69.1%)が最も割合が高く、次いで20年以上(68.3%)となっている。「賞味期限が過ぎてもすぐ捨てずに、自分で食べられるか判断する」については、1年未満(71.4%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(66.7%)となっている。

食べきれる量を購入する

冷凍保存を活用する

料理を作りすぎない

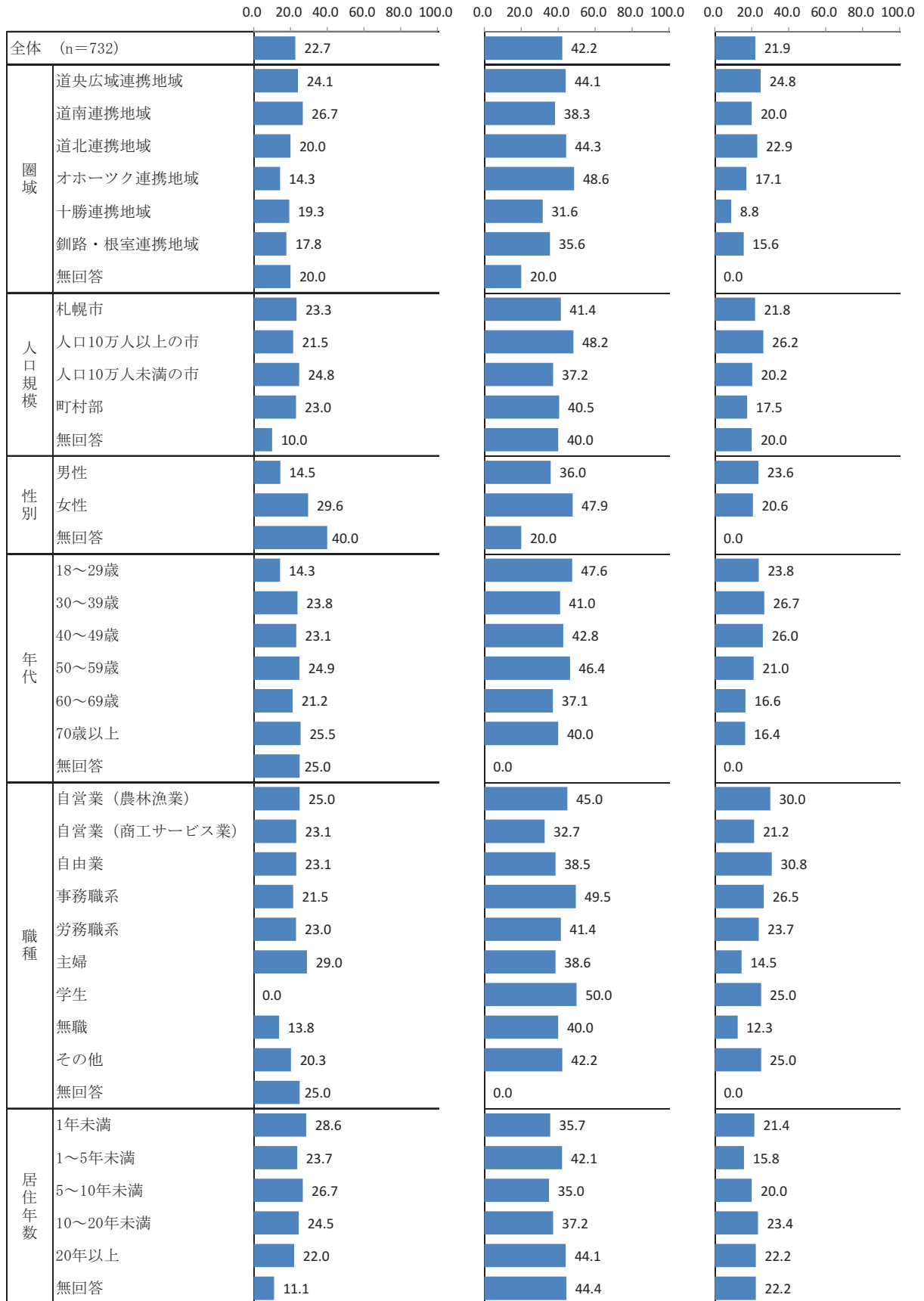




食べきれなかった料理を他の料理にリメイクしている

飲食店等で注文しすぎない

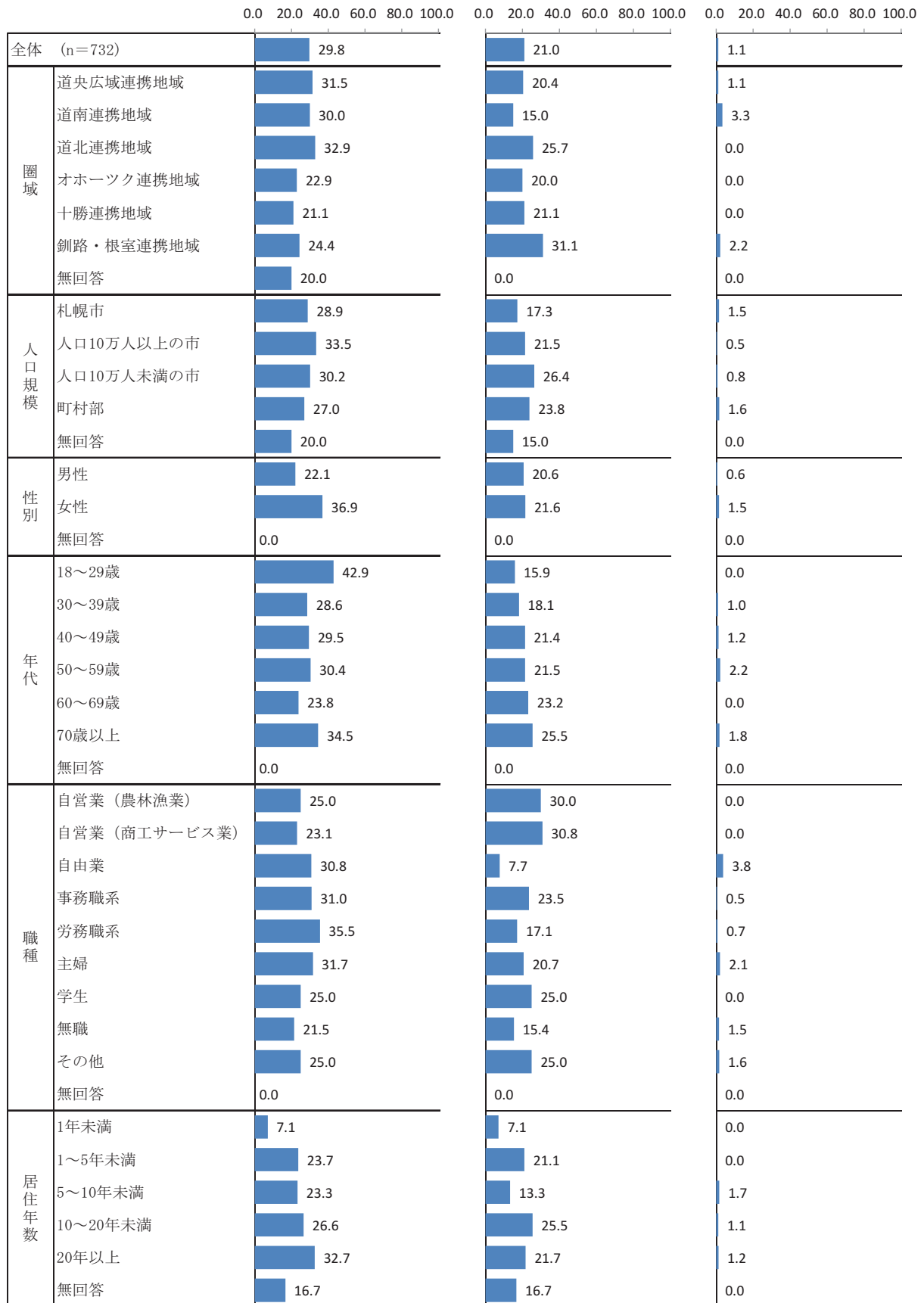
宴会時には、料理を食べきるようにしている



苦手な料理や量が多いときは
食べられる人に食べてもらう

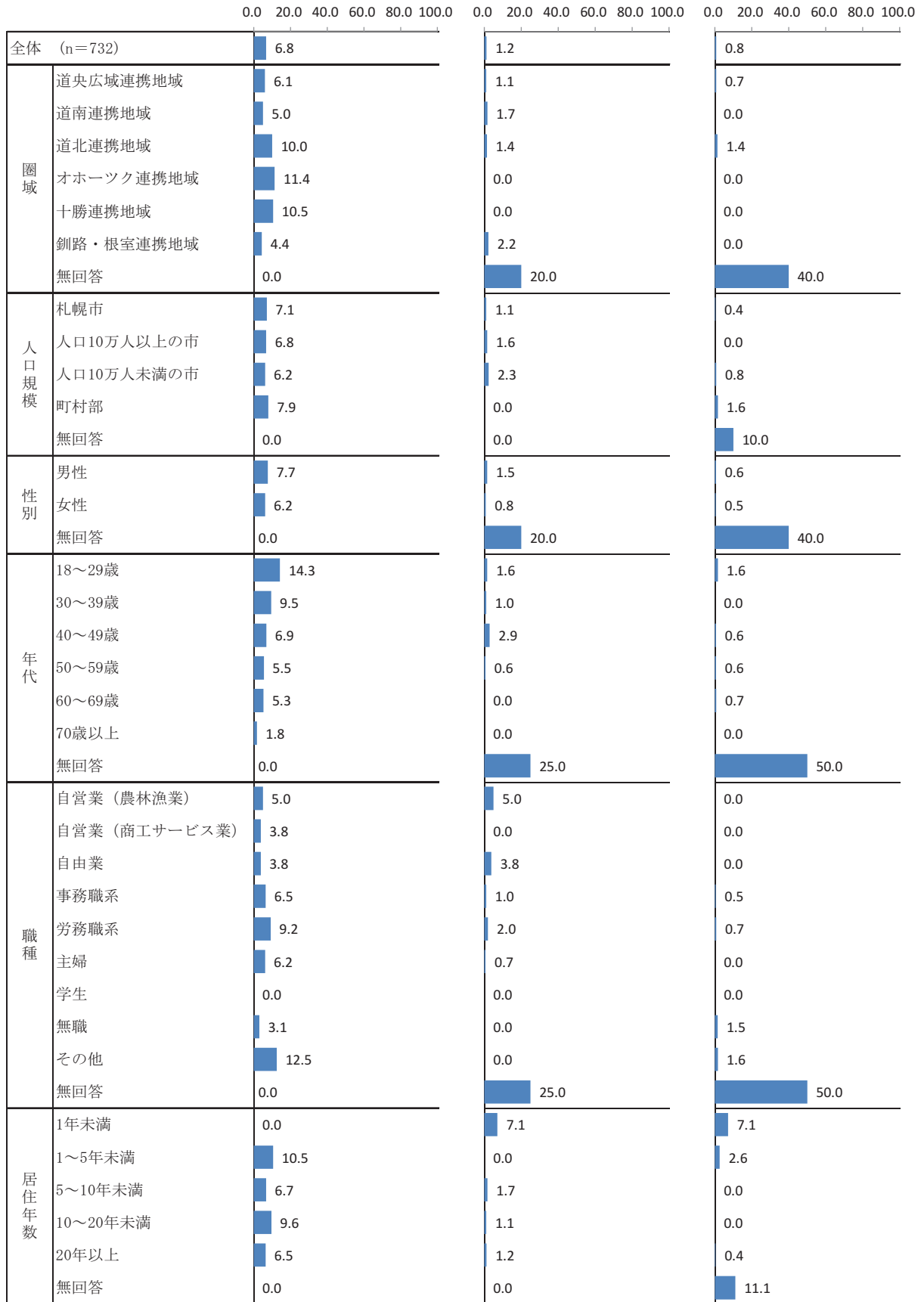
お店に了解をもらって、残った
料理を持ち帰っている

その他

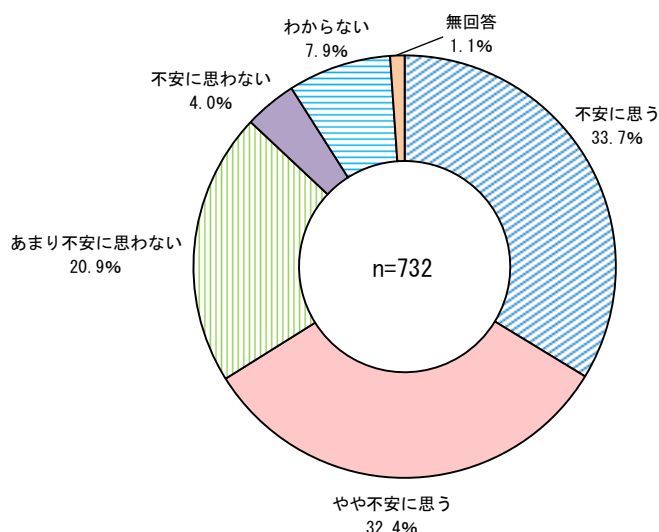


「食品ロス」について知っている
が、取り組んでいることはない

「食品ロス」について知らなく、無回答
取り組んでいることはない



問 34 あなたは、遺伝子組換え作物及びそれを使った食品の安全性について、どのように思われますか。次の中から 1つだけ お選びください。



【全体】

「不安に思う」(33.7%) と答えた方の割合が最も高く、次いで「やや不安に思う」(32.4%)、「あまり不安に思わない」(20.9%) の順となっている。

【圏域別】

「不安に思う」については、釧路・根室連携地域(42.2%) が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(38.6%) となっている。「やや不安に思う」については、十勝連携地域(36.8%) が最も割合が高く、次いで道北連携地域(34.3%) となっている。

【人口規模別】

「不安に思う」については、人口 10 万人以上の市(39.3%) が最も割合が高く、次いで札幌市(35.0%) となっている。「やや不安に思う」については、町村部(37.3%) が最も割合が高く、次いで人口 10 万人以上の市(33.0%) となっている。

【性別】

「不安に思う」については、男性 33.3%、女性 34.3% となっており、「やや不安に思う」については、男性 27.1%、女性 37.1% となっている。

【年代別】

「不安に思う」については、70 歳以上(47.3%) が最も割合が高く、次いで 50～59 歳(38.7%) となっている。「やや不安に思う」については、50～59 歳(34.3%) が最も割合が高く、次いで 40～49 歳(33.5%) となっている。

【職種別】

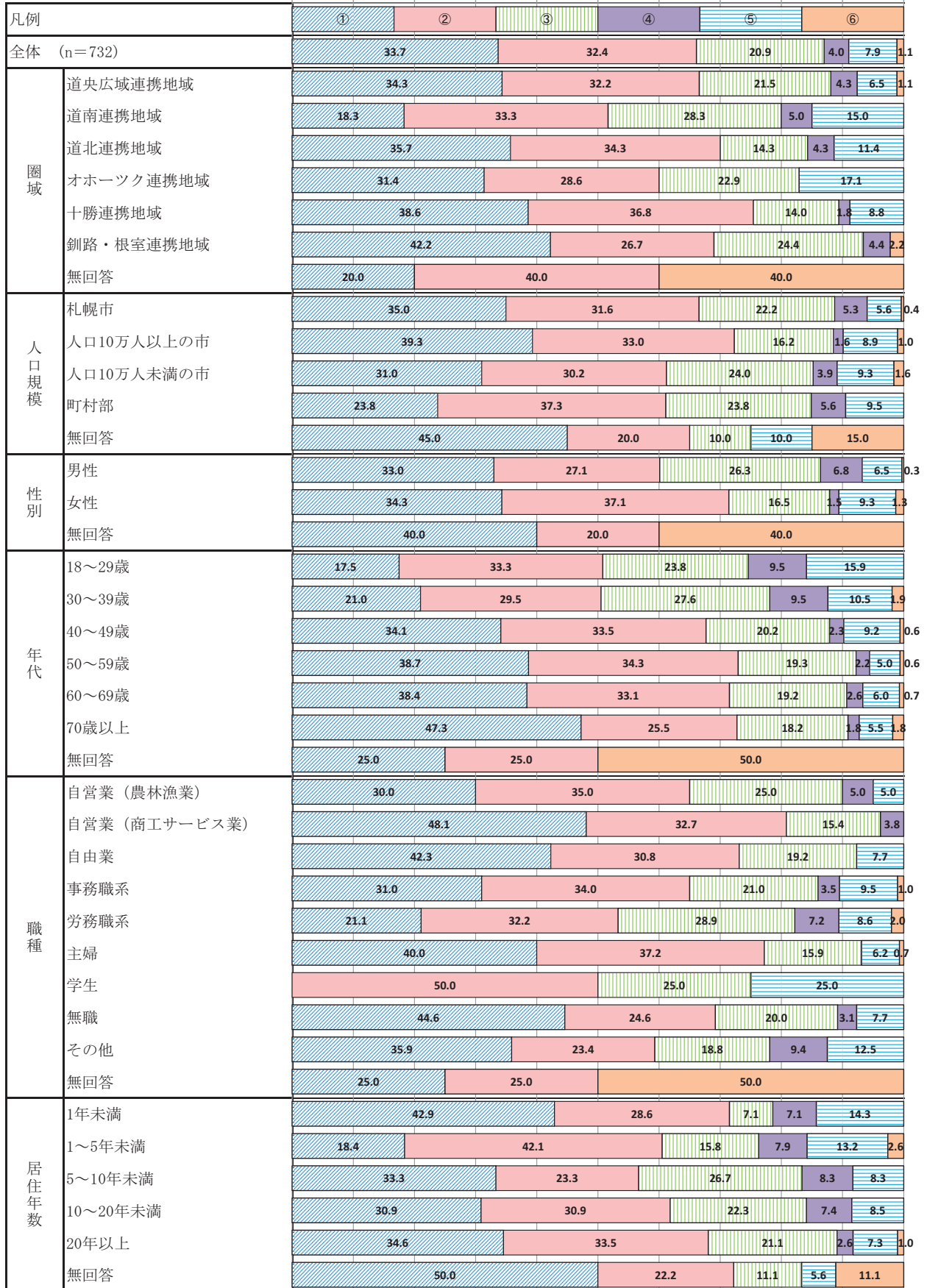
「不安に思う」については、自営業(商工サービス業)(48.1%) が最も割合が高く、次いで無職(44.6%) となっている。「やや不安に思う」については、主婦(37.2%) が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)(35.0%) となっている。

【居住年数別】

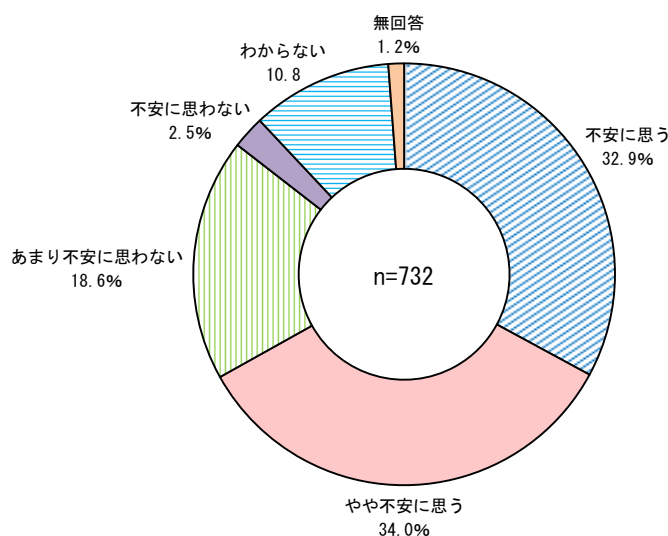
「不安に思う」については、1 年未満(42.9%) が最も割合が高く、次いで 20 年以上(34.6%) となっている。「やや不安に思う」については、1～5 年未満(42.1%) が最も割合が高く、次いで 20 年以上(33.5%) となっている。

①不安に思う ②やや不安に思う ③あまり不安に思わない ④不安に思わない
 ⑤わからない ⑥無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問 35 あなたは、遺伝子組換え作物を栽培することによる自然や環境への影響について、どのように思われますか。次の中から 1つだけ お選びください。



【全体】

「やや不安に思う」(34.0%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「不安に思う」(32.9%)、「あまり不安に思わない」(18.6%)の順となっている。

【圏域別】

「やや不安に思う」については、十勝連携地域(38.6%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(38.3%)となっている。「不安に思う」については、釧路・根室連携地域(37.8%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(35.7%)となっている。

【人口規模別】

「やや不安に思う」については、町村部(38.1%)が最も割合が高く、次いで札幌市と人口10万人以上の市が同率(33.5%)となっている。「不安に思う」については、人口10万人以上の市(38.2%)が最も割合が高く、次いで札幌市(33.5%)となっている。

【性別】

「やや不安に思う」については、男性28.9%、女性38.7%となっており、「不安に思う」については、男性32.2%、女性33.5%となっている。

【年代別】

「やや不安に思う」については、50～59歳(38.7%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(35.8%)となっている。「不安に思う」については、70歳以上(45.5%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(40.4%)となっている。

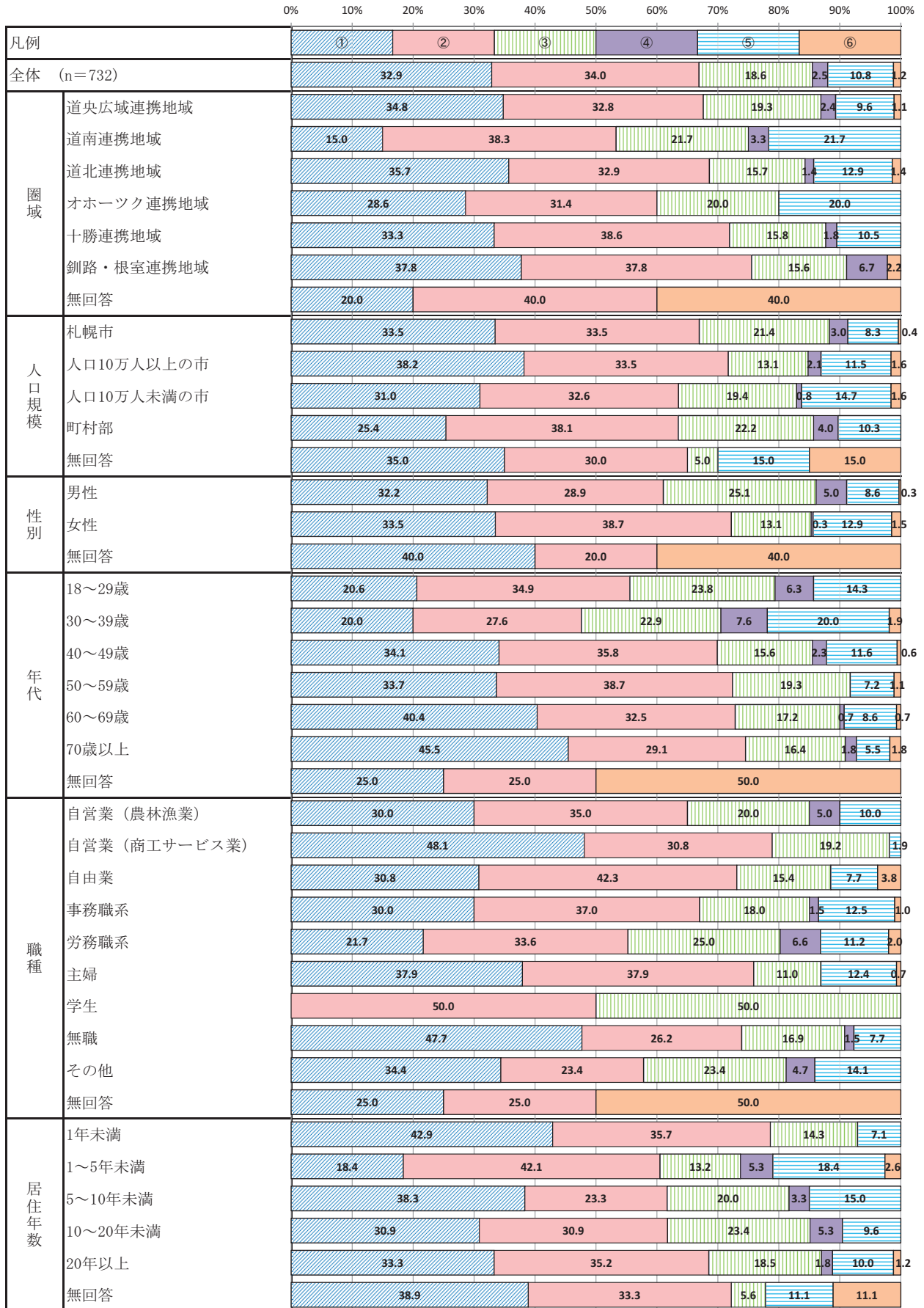
【職種別】

「やや不安に思う」については、自由業(42.3%)が最も割合が高く、次いで主婦(37.9%)となっている。「不安に思う」については、自営業(商工サービス業)(48.1%)が最も割合が高く、次いで無職(47.7%)となっている。

【居住年数別】

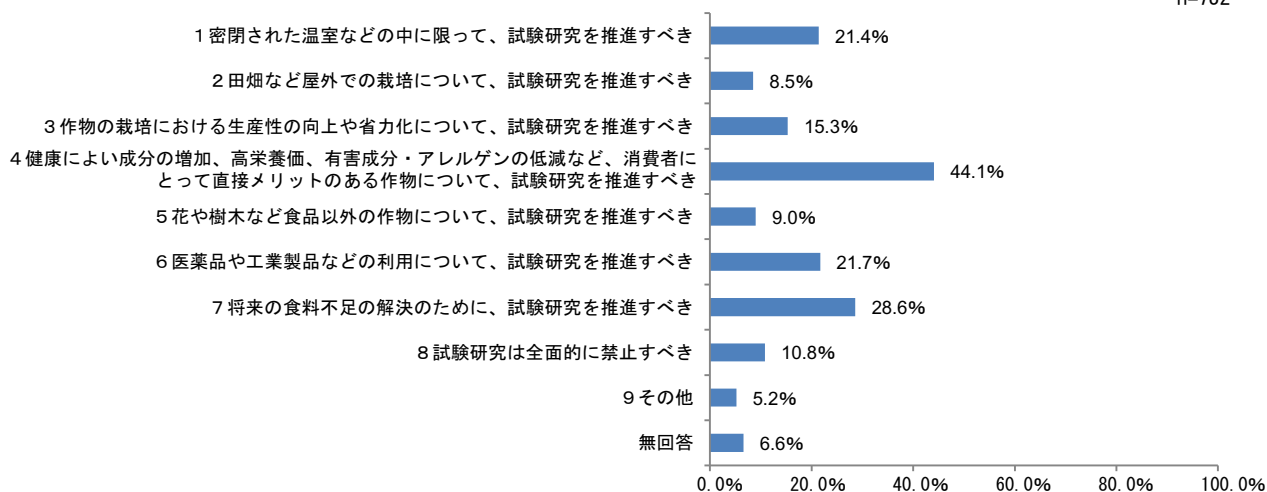
「やや不安に思う」については、1～5年未満(42.1%)が最も割合が高く、次いで1年未満(35.7%)となっている。「不安に思う」については、1年未満(42.9%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(38.3%)となっている。

①不安に思う ②やや不安に思う ③あまり不安に思わない ④不安に思わない
 ⑤わからない ⑥無回答



問 36 あなたは、遺伝子組換え技術の試験研究について、どのように思われますか。
 「推進すべき」と思われる方は次の1から7の中から当てはまるものをいくつでもお選びください。
 また、それ以外の方は8または9から1つだけお選びください。

n=732



【全体】

「健康により成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルゲンの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき」(44.1%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「将来の食料不足の解決のために、試験研究を推進すべき」(28.6%)、「医薬品や工業製品などの利用について、試験研究を推進すべき」(21.7%)の順となっている。

【圏域別】

「健康により成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルゲンの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき」については、オホーツク連携地域(51.4%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(51.1%)となっている。「将来の食料不足の解決のために、試験研究を推進すべき」については、道南連携地域(35.0%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(33.3%)となっている。

【人口規模別】

「健康により成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルゲンの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき」については、札幌市(47.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(42.6%)となっている。「将来の食料不足の解決のために、試験研究を推進すべき」については、人口10万人以上の市(34.0%)が最も割合が高く、町村部(31.0%)となっている。

【性別】

「健康により成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルゲンの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき」については、男性43.4%、女性45.4%となっており、「将来の食料不足の解決のために、試験研究を推進すべき」については、男性34.2%、女性23.5%となっている。

【年代別】

「健康により成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルゲンの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき」については、30～39歳(47.6%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(47.0%)となっている。「将来の食料不足の解決のために、試験研究を推進すべき」については、18～29歳(36.5%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(31.8%)となっている。

【職種別】

「健康によい成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルゲンの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき」については、事務職系（53.0%）が最も割合が高く、次いで労務職系（47.4%）となっている。「将来の食料不足の解決のために、試験研究を推進すべき」については、その他（40.6%）が最も割合が高く、次いで自由業（38.5%）となっている。

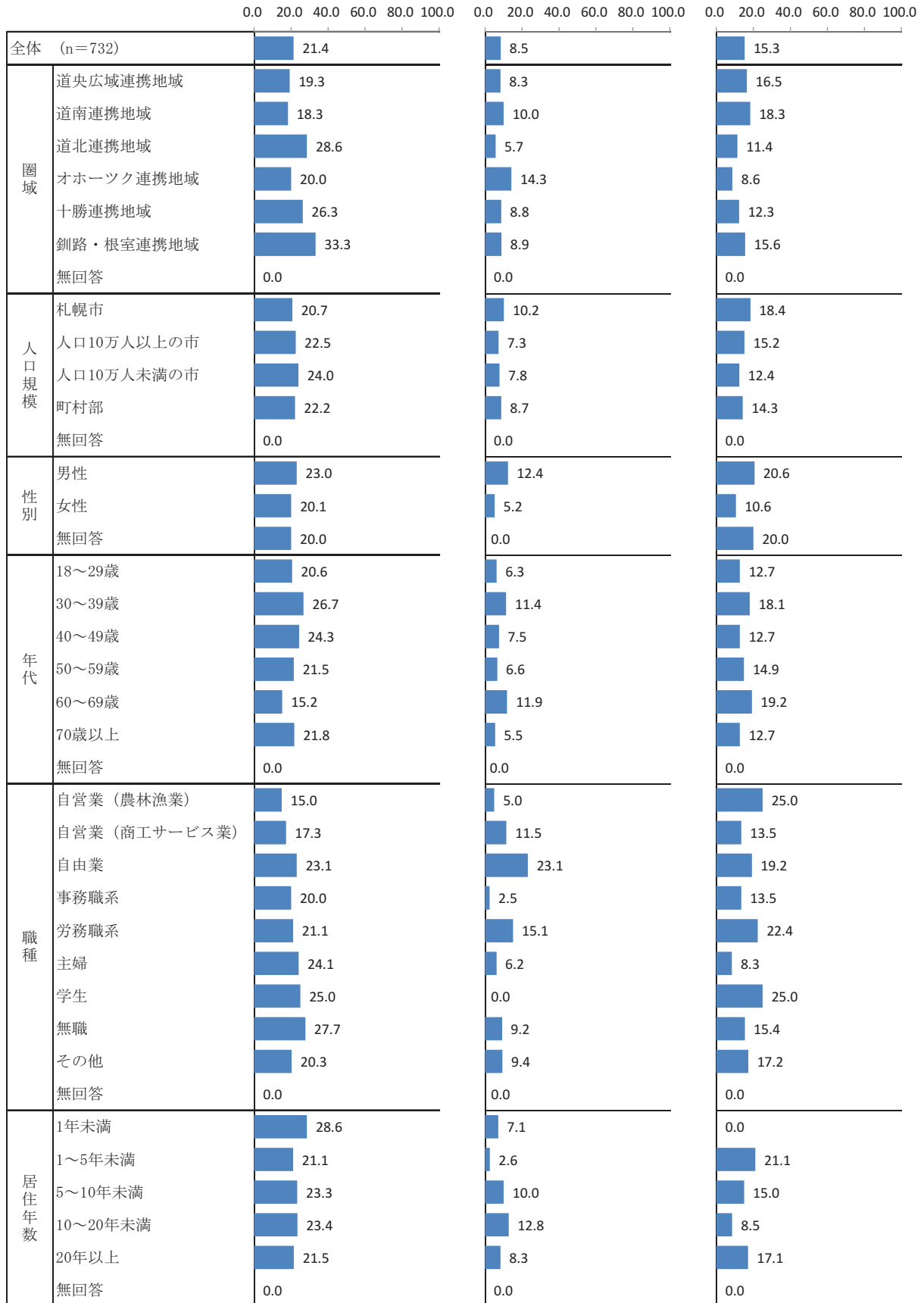
【居住年数別】

「健康によい成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルゲンの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき」については、20年以上（44.9%）が最も割合が高く、次いで5～10年未満（43.3%）となっている。「将来の食料不足の解決のために、試験研究を推進すべき」については、10～20年未満（29.8%）が最も割合が高く、次いで20年以上（29.1%）となっている。

密閉された温室などの中に限って、試験研究を推進すべき

田畑など屋外での栽培について、試験研究を推進すべき

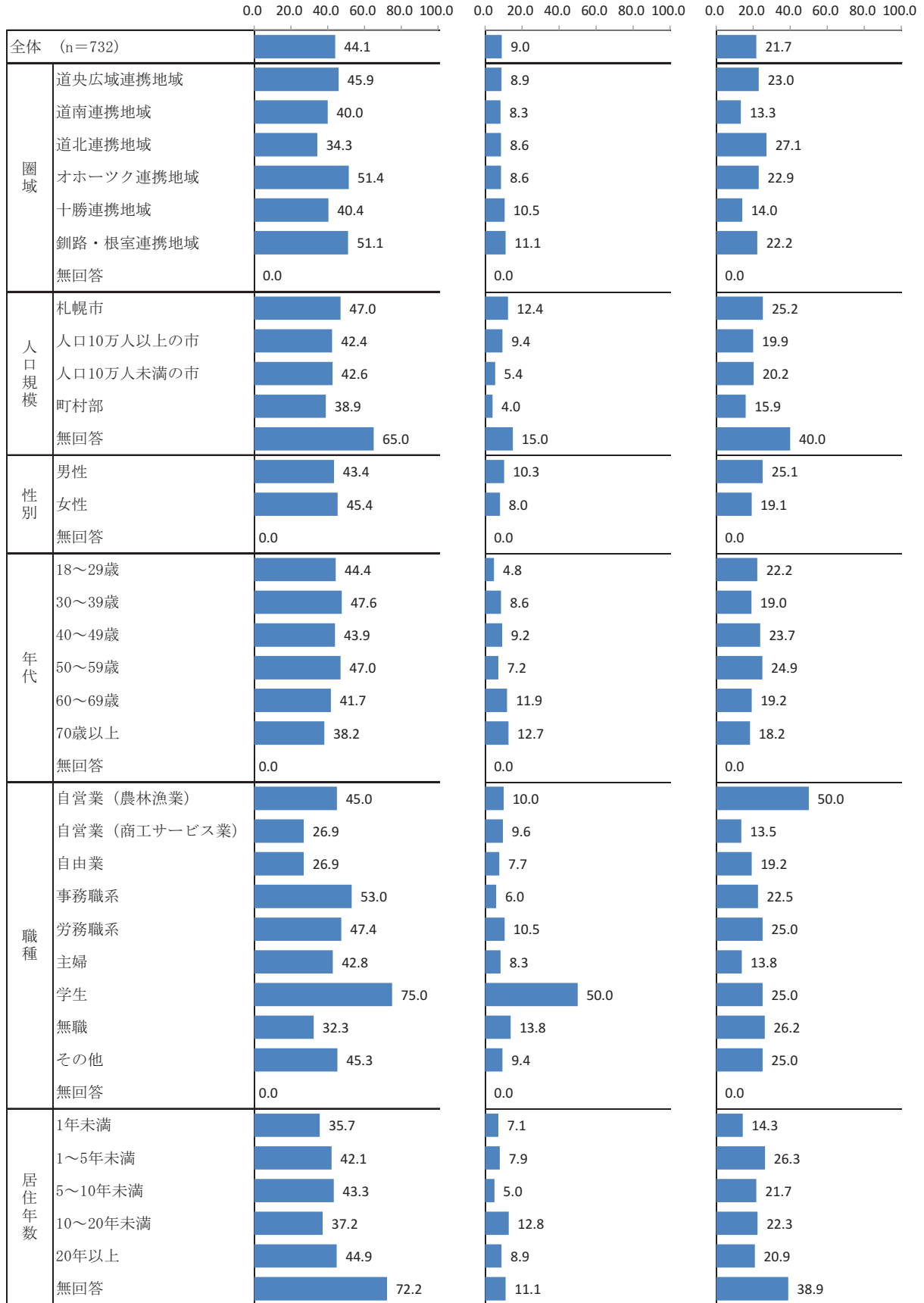
作物の栽培における生産性の向上や省力化について、試験研究を推進すべき



健康により成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルギーの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき

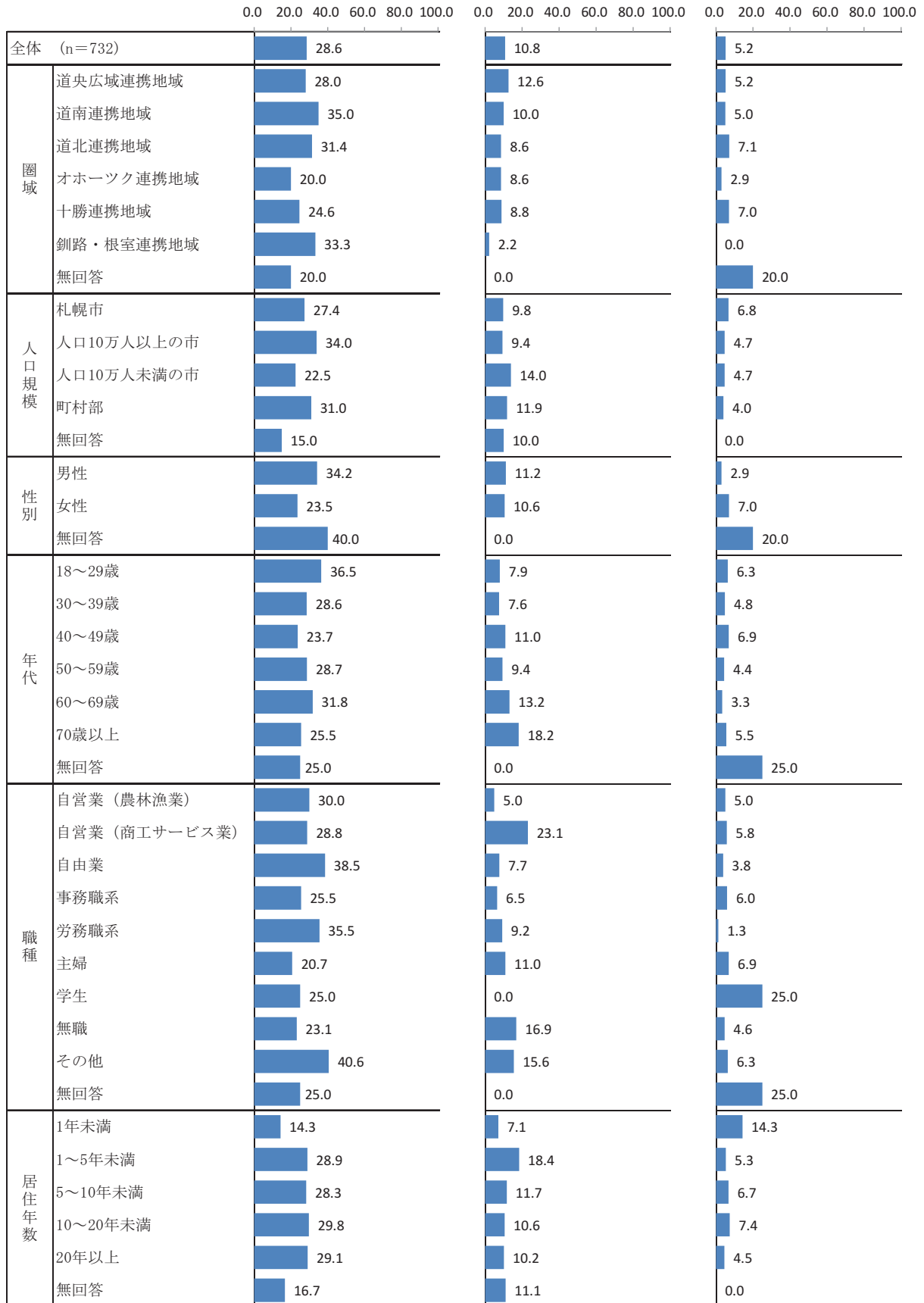
花や樹木など食品以外の作物について、試験研究を推進すべき

医薬品や工業製品などの利用について、試験研究を推進すべき

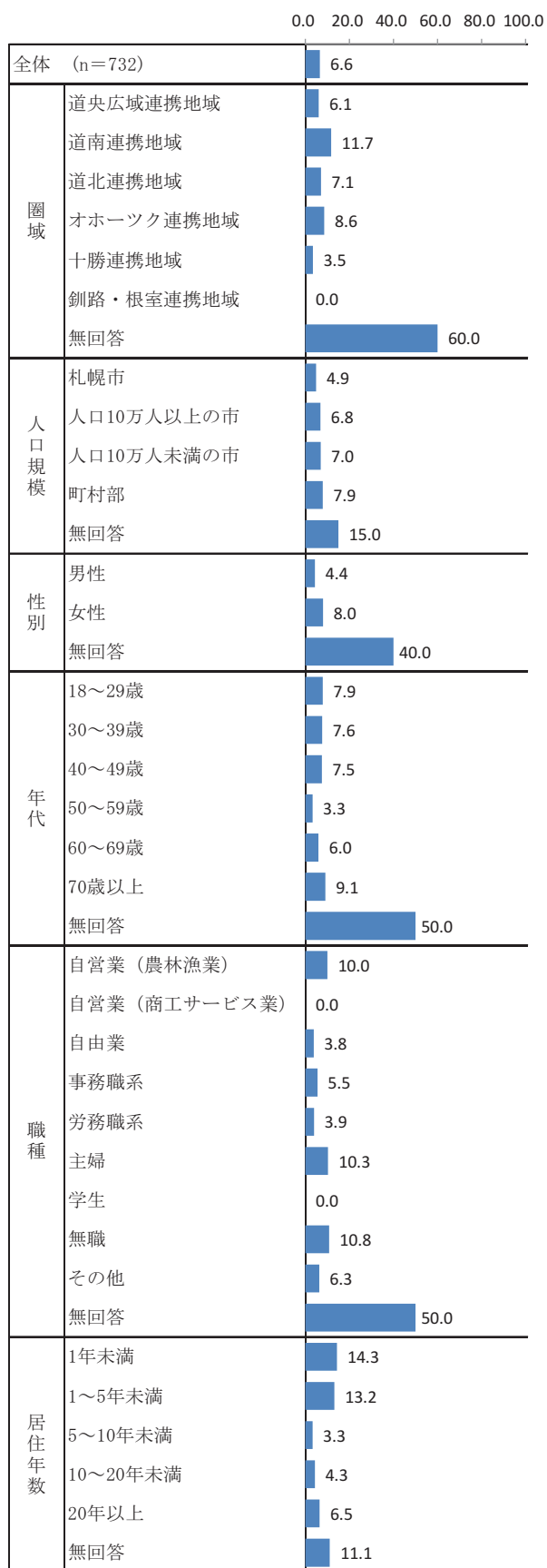


将来の食料不足の解決のために、試験研究は全面的に禁止すべき
試験研究を推進すべき

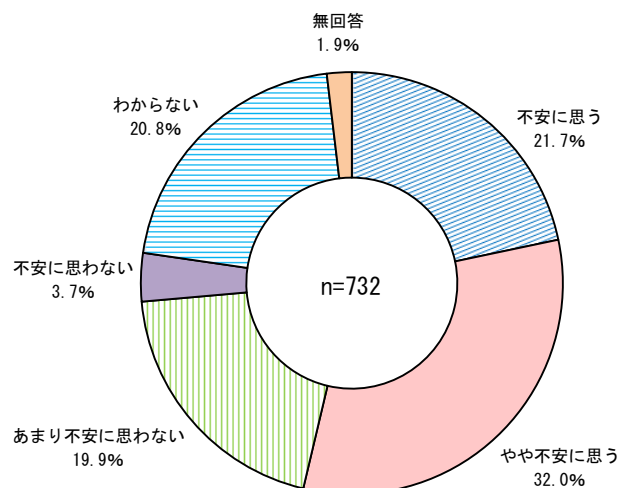
その他



無回答



問 37 あなたは、ゲノム編集技術を利用した農作物等の研究開発や食品の流通について、どのように思いますか。次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「やや不安に思う」(32.0%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「不安に思う」(21.7%)、「あまり不安に思わない」(19.9%)の順となっている。

【圏域別】

「やや不安に思う」については、十勝連携地域(35.1%)が最も割合が高く、次いで道央連携地域(32.8%)となっている。「不安に思う」については、釧路・根室連携地域(35.6%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(26.3%)となっている。

【人口規模別】

「やや不安に思う」については、町村部(38.9%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(33.5%)となっている。「不安に思う」については、人口10万人以上の市(27.7%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(22.5%)となっている。

【性別】

「やや不安に思う」については、男性31.0%、女性32.7%となっており、「不安に思う」については、男性23.0%、女性20.9%となっている。

【年代別】

「やや不安に思う」については、18～29歳(42.9%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(34.7%)となっている。「不安に思う」については、70歳以上(29.1%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(25.8%)となっている。

【職種別】

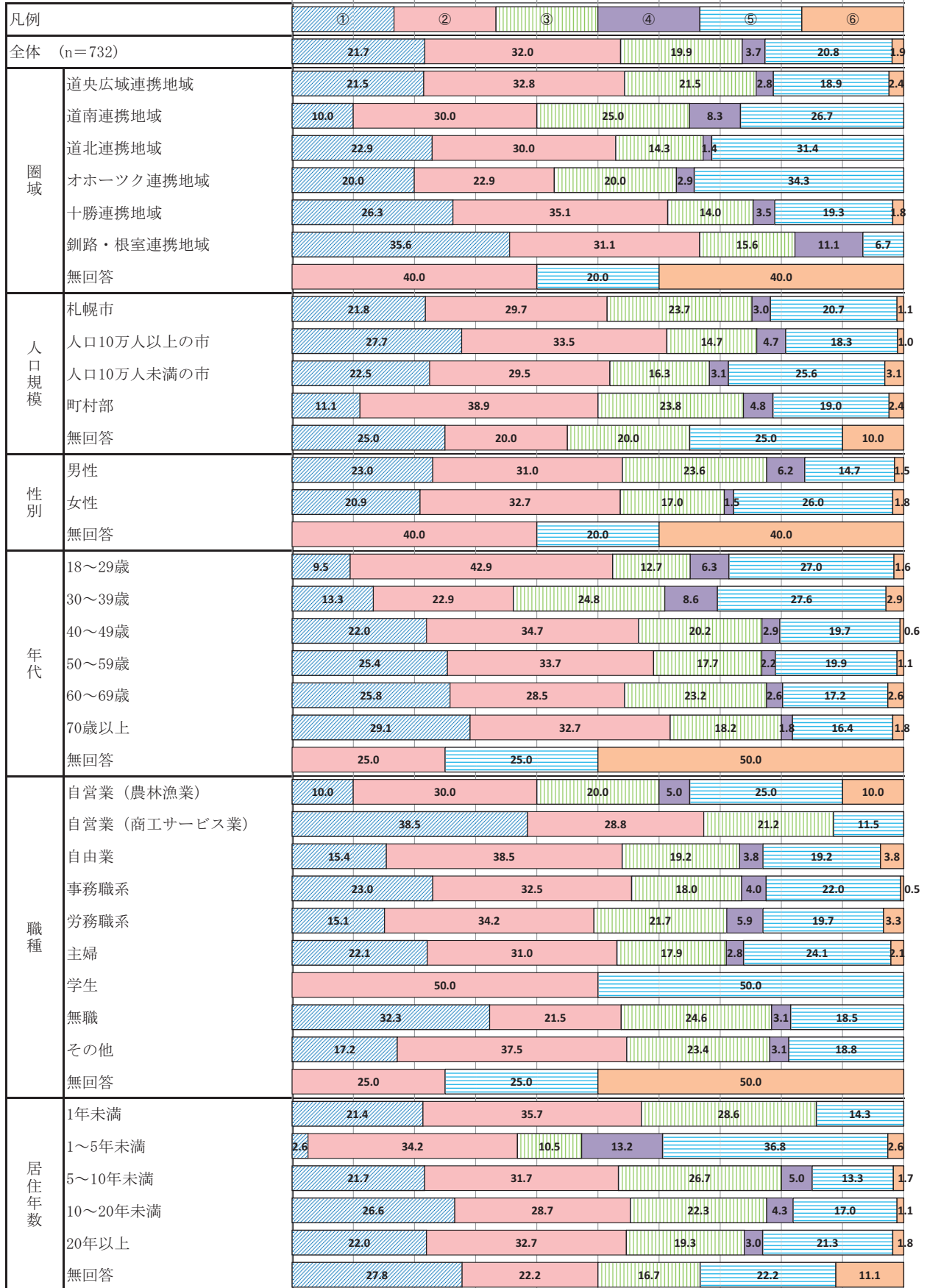
「やや不安に思う」については、自由業(38.5%)が最も割合が高く、次いでその他(37.5%)となっている。「不安に思う」については、自営業(商工サービス業)(38.5%)が最も割合が高く、次いで無職(32.3%)となっている。

【居住年数別】

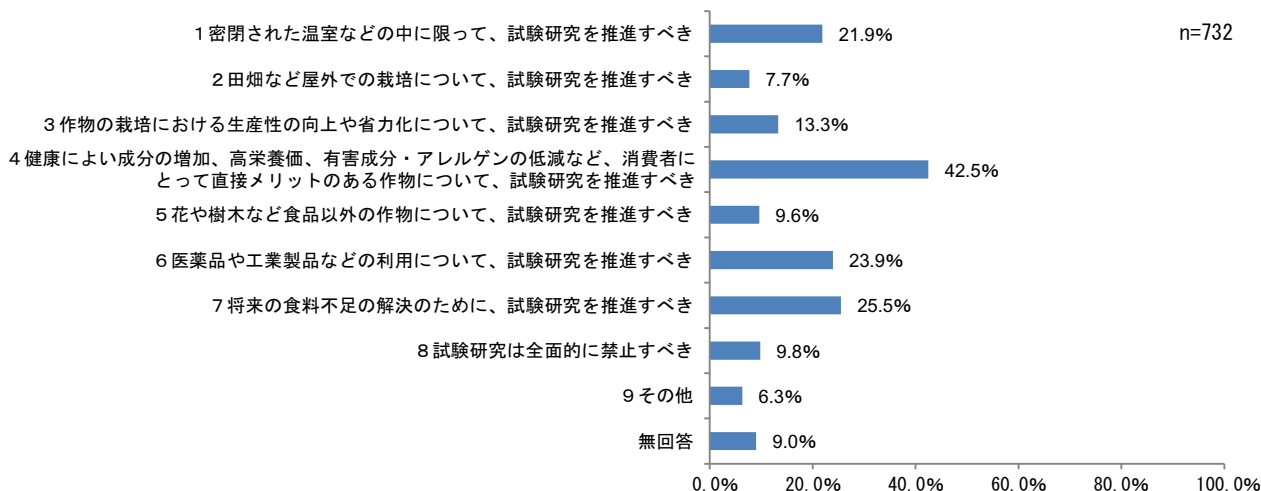
「やや不安に思う」については、1年未満(35.7%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(34.2%)となっている。「不安に思う」については、10～20年未満(26.6%)が最も割合が高く、次いで20年以上(22.0%)となっている。

①不安に思う ②やや不安に思う ③あまり不安に思わない ④不安に思わない
 ⑤わからない ⑥無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問 38 あなたは、ゲノム編集技術の試験研究について、どのように思われますか。
 「推進すべき」と思われる方は次の1から7の中から当てはまるものをいくつでもお選び
 ください。
 また、それ以外の方は8または9から1つだけお選びください。



【全体】

「健康により成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルゲンの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき」(42.5%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「将来の食料不足の解決のために、試験研究を推進すべき」(25.5%)、「医薬品や工業製品などの利用について、試験研究を推進すべき」(23.9%)の順となっている。

【圏域別】

「健康により成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルゲンの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき」については、釧路・根室連携地域(48.9%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(48.6%)となっている。「将来の食料不足の解決のために、試験研究を推進すべき」については、道北連携地域(31.4%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域と釧路・根室連携地域が同率(26.7%)となっている。

【人口規模別】

「健康により成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルゲンの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき」については、人口10万人未満の市(43.4%)が最も割合が高く、次いで札幌市(43.2%)となっている。「将来の食料不足の解決のために、試験研究を推進すべき」については、人口10万人以上の市(29.3%)が最も割合が高く、次いで町村部(27.8%)となっている。

【性別】

「健康により成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルゲンの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき」については、男性42.8%、女性42.5%となっており、「将来の食料不足の解決のために、試験研究を推進すべき」については、男性31.6%、女性20.4%となっている。

【年代別】

「健康により成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルゲンの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき」については、30～39歳(45.7%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(44.8%)となっている。「将来の食料不足の解決のために、試験研究を推進すべき」については、60～69歳(31.8%)が最も割合が高く、次いで18～29歳と50～59歳が同率(25.4%)となっている。

【職種別】

「健康によい成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルゲンの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき」については、事務職系（49.5%）が最も割合が高く、次いで労務職系が（47.4%）になっている。「将来の食料不足の解決のために、試験研究を推進すべき」については、自由業（38.5%）が最も割合が高く、次いでその他（37.5%）となっている。

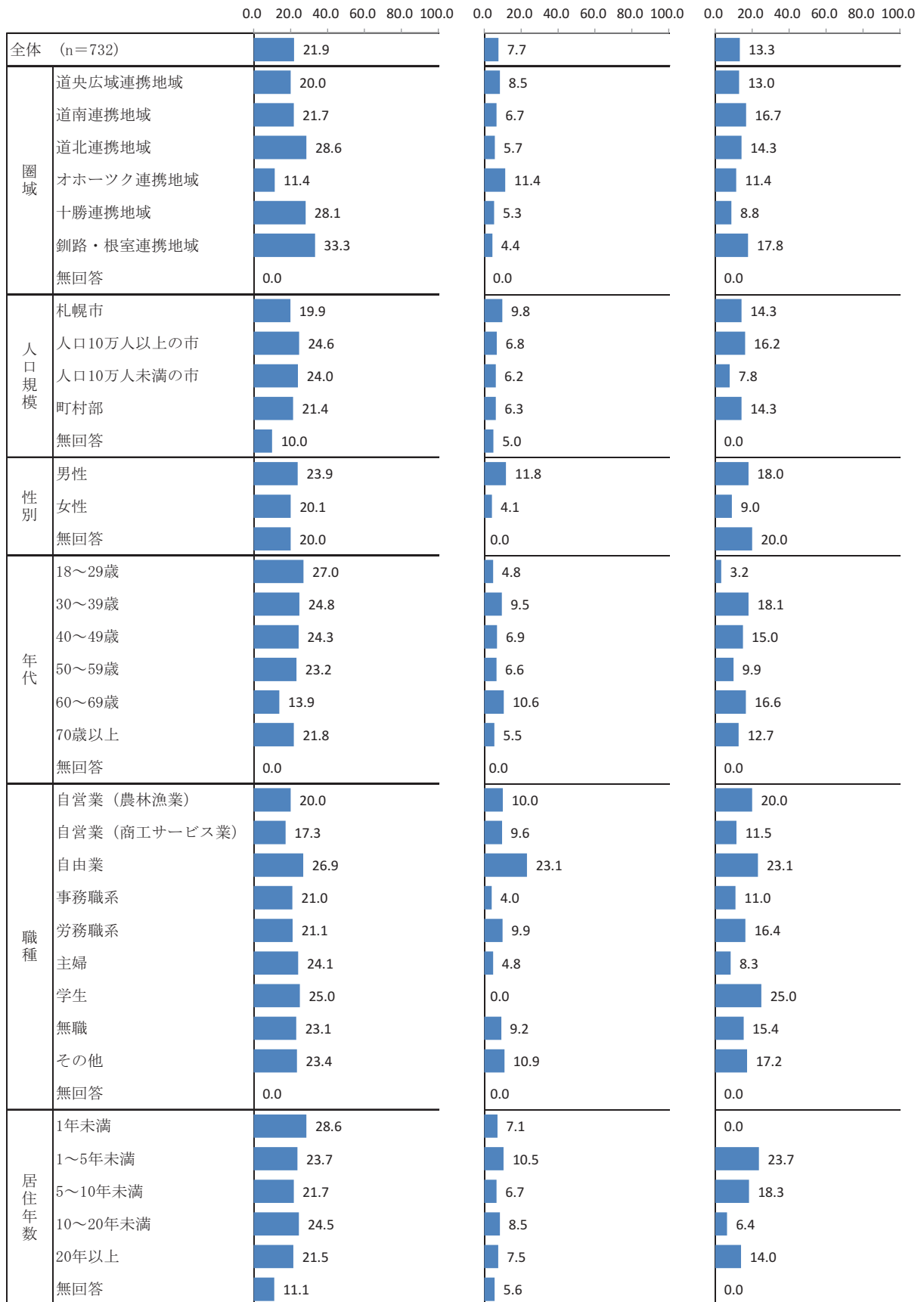
【居住年数別】

「健康によい成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルゲンの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき」については、5～10年未満（45.0%）が最も割合が高く、次いで1～5年未満（44.7%）となっている。「将来の食料不足の解決のために、試験研究を推進すべき」については、1～5年未満（28.9%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（27.7%）となっている。

密閉された温室などの中に限って、試験研究を推進すべき

田畑など屋外での栽培について、試験研究を推進すべき

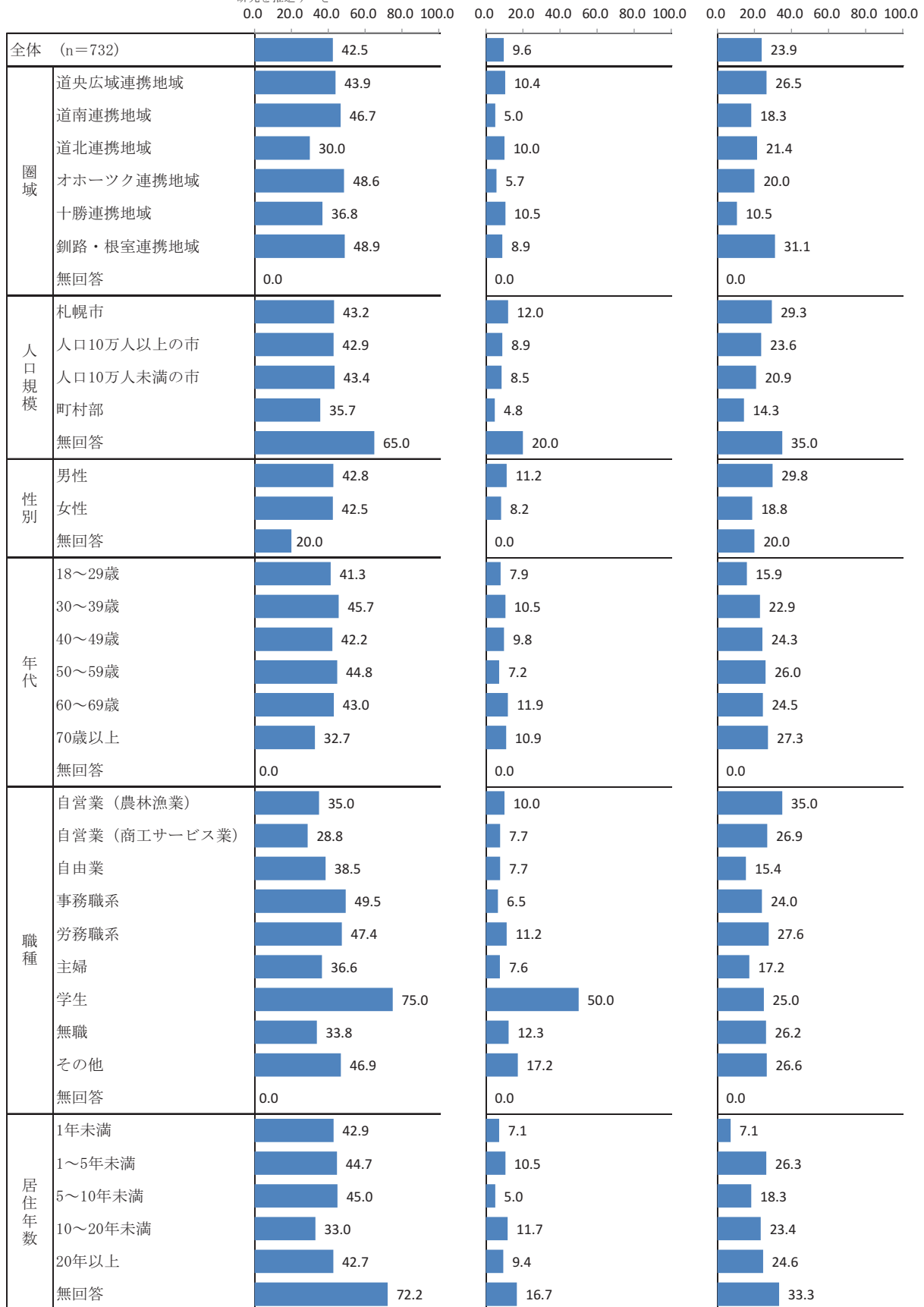
作物の栽培における生産性の向上や省力化について、試験研究を推進すべき



健康により成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルギーの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき

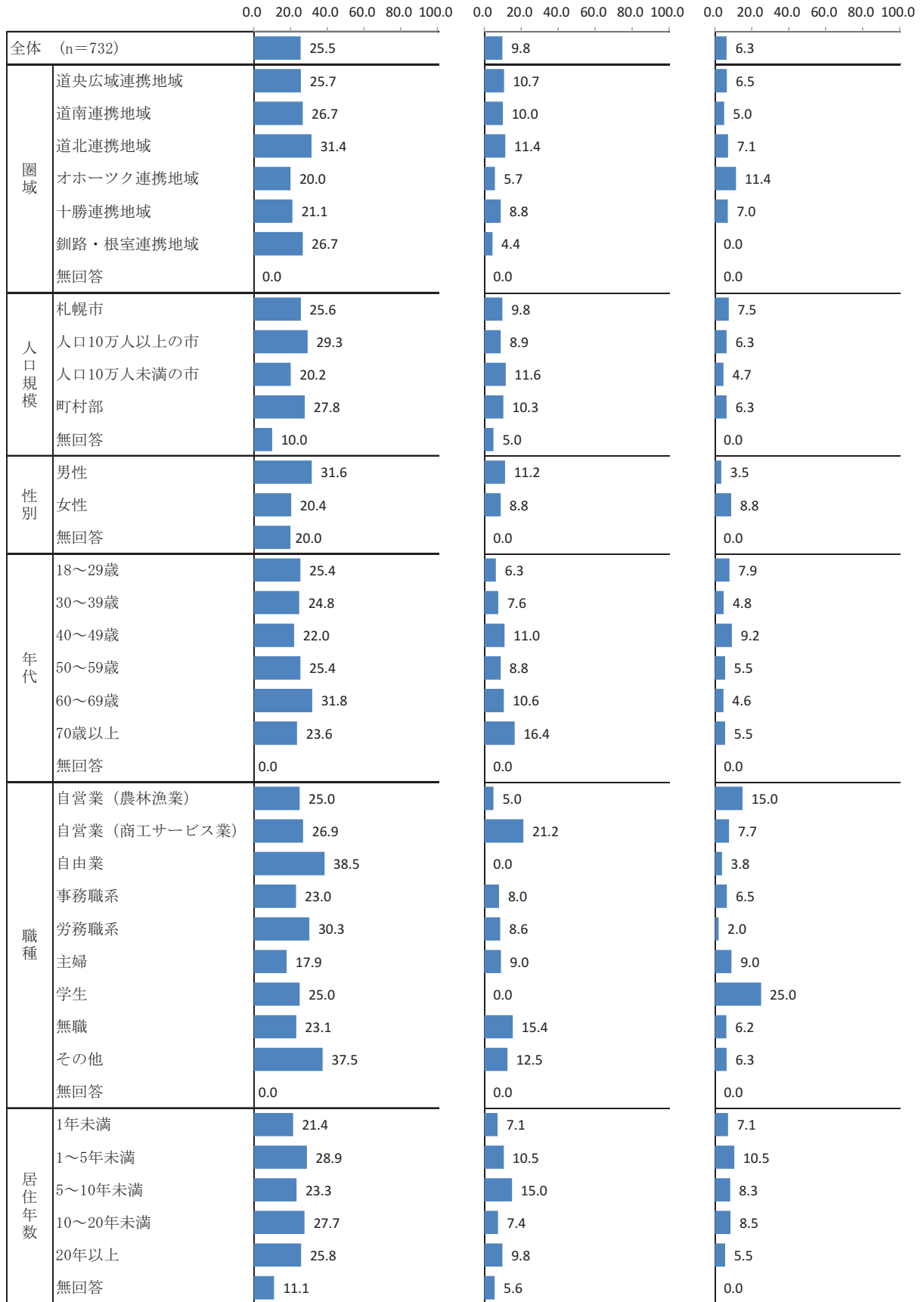
花や樹木など食品以外の作物について、試験研究を推進すべき

医薬品や工業製品などの利用について、試験研究を推進すべき

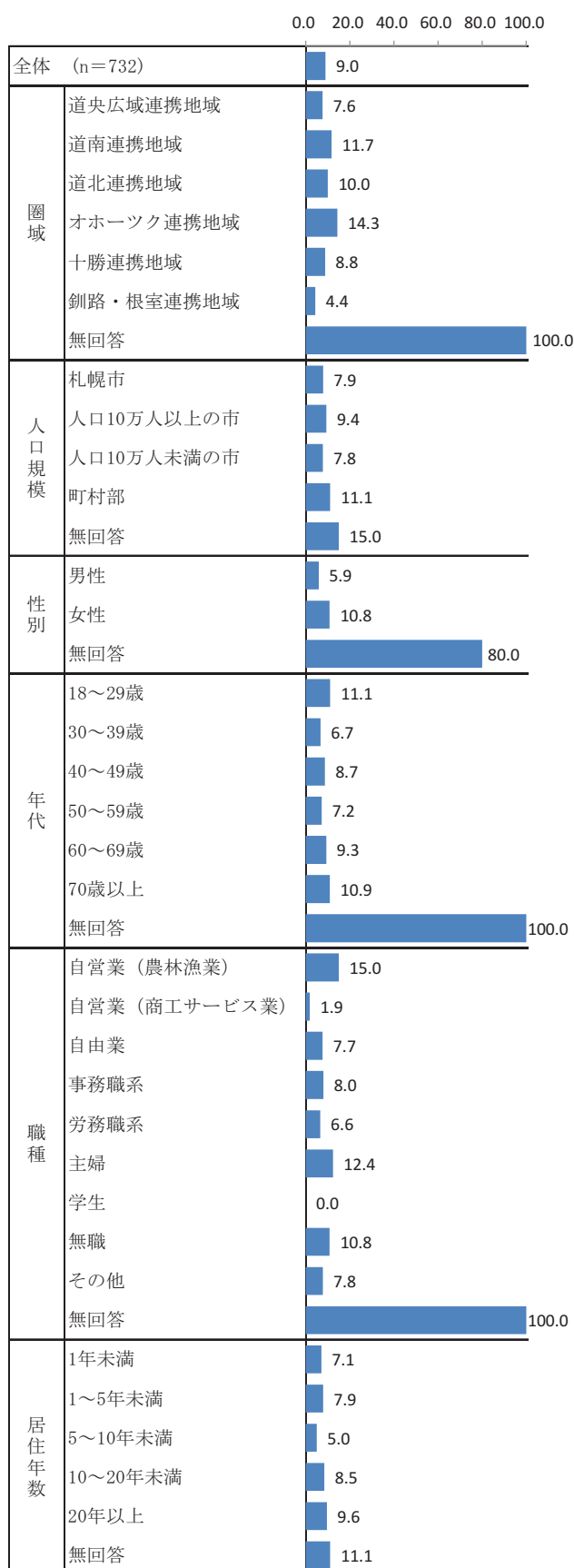


将来の食料不足の解決のために、試験研究は全面的に禁止すべき
試験研究を推進すべき

その他



無回答



■「食の安全・安心について」の調査を終えて

道民の食育への関心度を見ると、「関心がある」(32.0%)と「どちらかといえば関心がある」(46.2%)をあわせると8割近くとなり、食育への関心が高い傾向が見られた。

食品ロスの削減に9割以上の道民が取り組んでおり、その内容は、「冷凍保存を活用する」(67.2%)が最も高く、次いで、「賞味期限を過ぎてもすぐ捨てずに、自分で食べられるか判断する」(65.2%)、「食べきれぬ量を購入する」(63.8%)となっている。

また、遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品の安全性については、6割を超える方が「不安に思う」(33.7%)または「やや不安に思う」(32.4%)と回答されており、遺伝子組換え作物を栽培することによる自然や環境への影響についても、6割を超える方が「不安に思う」(32.9%)または「やや不安に思う」(34.0%)と回答されている。

ゲノム編集技術を利用した農作物等の研究開発や食品の流通については、5割を超える方が「不安に思う」(21.7%)または「やや不安に思う」(32.0%)と回答されているほか、約2割の方が「わからない」(20.8%)と回答されている。

こうした結果を踏まえ、第4次北海道食育推進計画（計画期間 2019～2023年度）で掲げる食育に関心のある道民の割合の目標値9割の達成に向けて、親子体験教室やシニア向け食育講座を開催するなど、幅広い世代への普及啓発を推進するとともに、食品ロス削減に向けては、「どさんこ愛食食べきり運動」を継続し、道民の食品ロス削減に向けた行動を促していくほか、今年度実施している「遺伝子組換え作物の栽培等による交雑等の防止に関する条例」の施行状況等の点検・検証にあたっての参考とするなど、食の安全・安心に関連する各施策をより効果的に推進していく。

（農政部食の安全推進局食品政策課）